

生徒意識調査の結果分析(1年)

【 数値が特に良かった項目 】

調査の項目	分析と改善に向けた具体的取り組み事項
① 人の役に立つ人間になりたいと思う	<p>①～⑤の項目では、「当てはまる」と答えた生徒が県平均を上回っている。特に①②から、子どもたちが、自分の将来像を前向きにとらえ、役に立つ人間になりたいと考えていることが分かる。また、③④の項目から、本校が力を入れている授業のスタイルである「授業のめあての提示と振り返り」が生徒にも浸透してきているようすがうかがえる。⑤の項目から、社会の学習で、子どもたちの将来の社会生活に向けて学習していることが、活用に対する意識を高くしたとうかがえる。</p> <p>一方で①の項目において、県平均を下回っている。人前で自分の考えを話すことを苦手と感じていることが分かる。他の項目から、家庭学習の時間が確保されておらず、授業の復習ができていない、テストのやり直しもできていないことが分かる。家庭学習の時間を定着させるために、学習計画やテスト勉強ノートの継続的指導を行っていききたい。学習に対しての意欲や自己認知はあるが、行動が伴わないので、家庭とも連携し改善をしていきたい。</p>
② 将来の夢や目標を持っている	
③ 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思う	
④ 授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いていると思う	
⑤ 社会の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	
【 数値が特に悪かった項目 】	
調査の項目	
① 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だと思う	
② 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか	
③ 学校の授業の復習をしている	
④ テストで分からなかった問題や間違えた問題についてやり直しをしている	
⑤ 普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりしますか	

生徒意識調査の結果分析(2年)

【 数値が特に高かった項目 】

調査の項目	分析と改善に向けた具体的取り組み事項
① 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている	<p>①～⑤の項目で「当てはまる」と答えた生徒が県平均を上回っている。特に、①の振り返り活動は県平均を大きく上回っており、⑤の項目とあわせて、本校が力を入れている授業のスタイルである「授業のめあての提示と振り返り」が生徒にも浸透してきている様子うかがえる。</p> <p>また、②と③の項目から、授業の中で学び合い活動に積極的に取り組んでいることが読み取れる。</p> <p>一方で、①～⑤の項目においては、県平均を大きく下回っている。特に①～③の項目から、家庭における学習時間が県平均に達していないと考えられる。これは、他の項目において「携帯電話の使用時間が県平均よりも長い」という結果がでていることなどから、家庭での時間の使い方がうまくできていないと考えられる。また、分からなかった問題や間違えた問題のやり直しをしなかったり、苦手な教科を避けたりするなど、自分の弱点を克服しようとする意志が弱いと考えられる。</p> <p>④の項目については、ほぼすべての授業において電子黒板の使用が浸透しており、生徒が特に目新しさを感じなくなっているためと考えられる。</p> <p>以上のことから、家庭とも連携しながら、携帯電話の使い方や家庭での時間の使い方などを確認し、計画的に家庭を定着させていきたい。また、苦手な問題などがあれば、気軽に質問ができる雰囲気をつくり、苦手な問題や教科にも意欲的に取り組むことができるよう支援していきたい。</p>
② 授業では、生徒間で話し合う活動をよく行っている	
③ 友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができる	
④ 国語の授業はよくわかる	
⑤ 授業の中で目標が示されている	
【 数値が特に低かった項目 】	
調査の項目	
① テストで分からなかった問題や間違えた問題についてやり直しをしている	
② 学校の授業の復習をしている	
③ 苦手な科目の勉強をしている	
④ 電子黒板やパソコンを使った授業を受けるのは楽しみだ	
⑤ 「総合」では、自分で課題を立てて情報を集め、調べたことを発表する活動をしている	

生徒意識調査の結果分析(3年)

【 数値が特に高かった項目 】

調査の項目	分析と改善に向けた具体的取り組み事項
① 新聞をよく読んでいる	<p>①の項目では「当てはまる」と答えた生徒が県や全国平均を5ポイント近く上回り、毎週実施している「新聞コラム」の効果が現れている。また、②～⑤の項目では「当てはまる」「よく当てはまる」と答えた生徒が県や全国平均を上回っている。学活や道徳をはじめ、全授業でホワイトボード等を活用した話し合い活動に取り組んでいることから、話し合いを通し課題解決に取り組もうとしている生徒が8割近くにいる結果に結びついていると考えられる。特に毎時間生徒同士での学び合う活動を入れている数学では「わかる」と答えている生徒が他教科より増えたことから、生徒同士での活動の有用性がうかがえる。</p> <p>一方で、①～⑤の項目においては、県平均を下回っている。ICT利活用に関しては、他県に比べ電子黒板等が浸透していることが起因し、利用度は全国平均より大幅に高いものの生徒の活用への意欲は全国平均より低い。また、社会参画を熱望する生徒や外国に興味のある生徒は1割程度であり、対人関係が狭まりつつある現代のコミュニティの影響があると考えられる。夢や目標があり、社会貢献を願う生徒が少ないことから、今後は生徒の自己肯定感を高める活動を仕組むことが必要である。</p>
② 授業でコンピュータなどのICTを利用している	
③ 学級で話し合い、互いの意見のよさを生かしてよりよい解決方法を決めている	
④ 道徳の授業で考えを深めたり話し合ったりする活動に取り組んでいる	
⑤ 数学の授業の内容がわかる	
【 数値が特に低かった項目 】	
調査の項目	
① 将来の夢や目標をもっている	
② 人の役に立つ人間になりたい	
③ 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある	
④ 外国の人と友達になったり、外国についてもっと知ったりしてみたい	
⑤ 授業でコンピュータなどのICTを活用したい	

生徒意識調査の結果分析(1年)4月調査

【 数値が特に良かった項目 】

	調査の項目	分析と改善に向けた具体的取り組み事項
①	人の役に立つ人間になりたいと思う。	<p>①～⑥の項目では、「当てはまる」と答えた生徒が県平均を上回っている。特に①②から、子どもたちが、自分の将来像を前向きにとらえ、役に立つ人間になりたいと考えていることが分かる。また、③④の項目から、本校が力を入れている授業のスタイルである「授業のめあての提示と振り返り」が生徒にも浸透してきているようすがうかがえる。⑤の項目から、社会の学習で、子どもたちの将来の社会生活に向けて学習していることが、活用に対する意識を高くしたとうかがえる。</p> <p>一方で①の項目において、県平均を下回っている。人前で自分の考えを話すことを苦手と感じていることが分かる。他の項目から、家庭学習の時間が確保されておらず、授業の復習ができていない、テストのやり直しもできていないことが分かる。家庭学習の時間を定着させるために、学習計画やテスト勉強ノートの継続的指導を行っていきたい。学習に対しての意欲や自己認知はあるが、行動が伴わないので、家庭とも連携し改善をしていきたい。</p>
②	将来の夢や目標を持っている。	
③	授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思う。	
④	授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いていると思う。	
⑤	社会の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。	

【 数値が特に悪かった項目 】

	調査の項目	分析と改善に向けた具体的取り組み事項
①	友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意だと思う。	<p>①～⑥の項目で「当てはまる」と答えた生徒が県平均を上回っている。特に①の振り返り活動は県平均を大きく上回っており、⑥の項目とあわせて、本校が力を入れている授業のスタイルである「授業のめあての提示と振り返り」が生徒にも浸透してきているようすがうかがえる。また、②と③の項目から、授業の中で学び合い活動に積極的に取り組んでいることが読み取れる。</p> <p>一方で、①～⑥の項目においては、県平均を大きく下回っている。特に①～⑥の項目から、家庭における学習時間が県平均に達していないと考えられる。これは、他の項目において「携帯電話の使用時間が県平均よりも長い」という結果がでていることなどから、家庭での時間の使い方がうまくできていないと考えられる。また、分らなかった問題や間違えた問題のやり直しをしなかったり、苦手な教科を避けたりするなど、自分の弱点を克服しようとする意志が弱いと考えられる。④の項目については、ほぼすべての授業において電子黒板の使用が浸透しており、生徒が特に目新しさを感じなくなっているためと考えられる。</p> <p>以上のことから、家庭とも連携しながら、携帯電話の使い方や家庭での時間の使い方などを確認し、計画的に家庭を定着させていきたい。また、苦手な問題などがあれば、気軽に質問ができる雰囲気をつくり、苦手な問題や教科にも意欲的に取り組むことができるよう支援していきたい。</p>
②	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいかの時間、勉強をしますか。	
③	学校の授業の復習をしている。	
④	テストで分らなかった問題や間違えた問題についてやり直しをしている。	
⑤	普段、1日当たりどれくらいかの時間、テレビやビデオ・DVDを見たりの面白いテレビ番組を見ている。	

生徒意識調査の結果分析(2年)

【 数値が特に高かった項目 】

	調査の項目	分析と改善に向けた具体的取り組み事項
①	授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。	<p>①～⑥の項目で「当てはまる」と答えた生徒が県平均を上回っている。特に①の振り返り活動は県平均を大きく上回っており、⑥の項目とあわせて、本校が力を入れている授業のスタイルである「授業のめあての提示と振り返り」が生徒にも浸透してきているようすがうかがえる。また、②と③の項目から、授業の中で学び合い活動に積極的に取り組んでいることが読み取れる。</p> <p>一方で、①～⑥の項目においては、県平均を大きく下回っている。特に①～⑥の項目から、家庭における学習時間が県平均に達していないと考えられる。これは、他の項目において「携帯電話の使用時間が県平均よりも長い」という結果がでていることなどから、家庭での時間の使い方がうまくできていないと考えられる。また、分らなかった問題や間違えた問題のやり直しをしなかったり、苦手な教科を避けたりするなど、自分の弱点を克服しようとする意志が弱いと考えられる。④の項目については、ほぼすべての授業において電子黒板の使用が浸透しており、生徒が特に目新しさを感じなくなっているためと考えられる。</p> <p>以上のことから、家庭とも連携しながら、携帯電話の使い方や家庭での時間の使い方などを確認し、計画的に家庭を定着させていきたい。また、苦手な問題などがあれば、気軽に質問ができる雰囲気をつくり、苦手な問題や教科にも意欲的に取り組むことができるよう支援していきたい。</p>
②	授業では、生徒間で話し合う活動をよく行っている。	
③	友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができる。	
④	国語の授業はよくわかる。	
⑤	授業の中で目標が示されている。	

【 数値が特に低かった項目 】

	調査の項目	分析と改善に向けた具体的取り組み事項
①	テストで分らなかった問題や間違えた問題についてやり直しをしている。	<p>①～⑥の項目で「当てはまる」と答えた生徒が県平均を上回っている。特に①の振り返り活動は県平均を大きく上回っており、⑥の項目とあわせて、本校が力を入れている授業のスタイルである「授業のめあての提示と振り返り」が生徒にも浸透してきているようすがうかがえる。また、②と③の項目から、授業の中で学び合い活動に積極的に取り組んでいることが読み取れる。</p> <p>一方で、①～⑥の項目においては、県平均を大きく下回っている。特に①～⑥の項目から、家庭における学習時間が県平均に達していないと考えられる。これは、他の項目において「携帯電話の使用時間が県平均よりも長い」という結果がでていることなどから、家庭での時間の使い方がうまくできていないと考えられる。また、分らなかった問題や間違えた問題のやり直しをしなかったり、苦手な教科を避けたりするなど、自分の弱点を克服しようとする意志が弱いと考えられる。④の項目については、ほぼすべての授業において電子黒板の使用が浸透しており、生徒が特に目新しさを感じなくなっているためと考えられる。</p> <p>以上のことから、家庭とも連携しながら、携帯電話の使い方や家庭での時間の使い方などを確認し、計画的に家庭を定着させていきたい。また、苦手な問題などがあれば、気軽に質問ができる雰囲気をつくり、苦手な問題や教科にも意欲的に取り組むことができるよう支援していきたい。</p>
②	学校の授業の復習をしている。	
③	苦手な科目の勉強をしている。	
④	電子黒板やパソコンを使った授業を受けるのは楽しみだ。	
⑤	「総合」では、自分で課題を立てて情報を集め、調べたことを発表する活動をしている。	

生徒意識調査の結果分析(3年)

【 数値が特に高かった項目 】

	調査の項目	分析と改善に向けた具体的取り組み事項
①	新聞をよく読んでいる。	<p>①の項目では「当てはまる」と答えた生徒が県や全国平均を5ポイント近く上回り、毎週実施している「新聞コラム」の効果が現れている。また、②～⑥の項目では「当てはまる」「よく当てはまる」と答えた生徒が県や全国平均を上回っている。学活や道徳をはじめ、全授業でホワイトボード等を活用した話し合い活動に取り組んでいることから、話し合いを通し課題解決に取り組もうとしている生徒が8割近くにのぼる結果に結びついていると考えられる。特に毎時間生徒同士での学び合う活動を入れている数学では「わかる」と答えている生徒が他教科より増えたことから、生徒同士での活動の有用性がうかがえる。</p> <p>一方で、①～⑥の項目においては、県平均を下回っている。ICT活用に関しては、他県に比べ電子黒板等が浸透していることが起因し、利用率は全国平均より大幅に高いものの生徒の活用への意欲は全国平均より低い。また、社会参画を熱望する生徒や外国に興味のある生徒は1割程度であり、対人関係が狭まりつつある現代のコミュニティの影響があると考えられる。夢や目標があり、社会貢献を願う生徒が少ないことから、今後は生徒の自己肯定感を高める活動を仕組むことが必要である。</p>
②	授業でコンピュータなどのICTを利用している。	
③	学級で話し合い、互いの意見のよさを生かしてよりよい解決方法を決めている。	
④	道徳の授業で考えを深めたり話し合ったりする活動に取り組んでいる。	
⑤	数学の授業の内容がわかる。	

【 数値が特に低かった項目 】

	調査の項目	分析と改善に向けた具体的取り組み事項
①	将来の夢や目標をもっている。	<p>①～⑥の項目で「当てはまる」と答えた生徒が県や全国平均を上回っている。特に①の振り返り活動は県平均を大きく上回っており、⑥の項目とあわせて、本校が力を入れている授業のスタイルである「授業のめあての提示と振り返り」が生徒にも浸透してきているようすがうかがえる。また、②と③の項目から、授業の中で学び合い活動に積極的に取り組んでいることが読み取れる。</p> <p>一方で、①～⑥の項目においては、県平均を下回っている。特に①～⑥の項目から、家庭における学習時間が県平均に達していないと考えられる。これは、他の項目において「携帯電話の使用時間が県平均よりも長い」という結果がでていることなどから、家庭での時間の使い方がうまくできていないと考えられる。また、分らなかった問題や間違えた問題のやり直しをしなかったり、苦手な教科を避けたりするなど、自分の弱点を克服しようとする意志が弱いと考えられる。④の項目については、ほぼすべての授業において電子黒板の使用が浸透しており、生徒が特に目新しさを感じなくなっているためと考えられる。</p> <p>以上のことから、家庭とも連携しながら、携帯電話の使い方や家庭での時間の使い方などを確認し、計画的に家庭を定着させていきたい。また、苦手な問題などがあれば、気軽に質問ができる雰囲気をつくり、苦手な問題や教科にも意欲的に取り組むことができるよう支援していきたい。</p>
②	人の役に立つ人間になりたい。	
③	地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。	
④	外国の人と友達になったり、外国についてもっと知ったりしてみたい。	
⑤	授業でコンピュータなどのICTを活用したい。	